

石川県白山自然保護センター普及誌

はくさん

特集 登山道整備

第31巻 第1号



センサーを用いた登山者数調査

今年、白山に登山された方は、別当出合などの登山口で太陽電池パネルがついた奇妙な器械を見かけたことと思います。これは、環境省が設置した登山者数を数えるための登山者カウンターです。

これまで、白山の登山者数は、アンケートや限られた場所での数日間の現地調査から得られた日帰り率と室堂や南竜山荘などの宿泊者数から算定されてきました。自動的に、より正確な登山者数を把握するため、尾瀬、白神山地、屋久島などで行われているようなセンサーを用いた登山者数の計測を行うことにしました。白山での設置箇所は砂防新道（別当出合）、観光新道（別当出合）、平瀬道（大白川）、市ノ瀬・別山道（市ノ瀬）、釈迦新道（市ノ瀬）、中宮道（中宮温泉）、鳩ヶ湯新道（上小池）の主要な登山道7か所で、入山者と下山者を区別し、通過した時間を記録しています。

得られたデータは登山道や施設の整備、ピーク時交通規制などのための基礎データとして活用していくこととしています。

（文：野上達也 写真：二神紀彦）

日本百名山登山歩道整備事業について

二神 紀彦

百名山ブームと利用集中

日本の代表的な自然である山々が、今、数多くの深刻な問題を抱えています。中でも、近年の百名山ブームを背景とした一部の有名山岳地へのオーバーユース（過剰利用）の問題は、登山道の浸食、周辺植生の破壊といった山の自然の荒廃に繋がる大きな問題です。

作家の深田久弥が「日本百名山」を出版したのが1964年。その後1990年にNHKのBS放送で「日本百名山」が放映され、中高年登山ブームと相まって「百名山ブーム」を引き起こしました。

百名山ブームにより、その対象となった山々では山岳地利用上の様々な問題が生じています。登山者の集中、登山道沿いにおける植生の破壊と土壌の流出、オーバーユースによる植生破壊の拡大、し尿処理などなど。また、登山道の浸食防止などで整備した登山道が周辺の自然・山岳景観にそぐわない過剰整備であるとの批判を受ける事態も発生しています。登山道は自然とふれあえる最も大切な施設です。将来に渡り適切な山岳地利用をするために今考えなければならぬことは何でしょうか。

百名山に挙げられている山のうち国立公園地域に含まれるものが73座、国定公園地域に含まれるものが17座であり、国立・国定公園にその9割があります。このような現状を踏まえ、環境省では、国立・国定公園内の登山道のあり方を検討する調査や、百名山登山道の整備事業を実施し、山岳地で起こる様々な問題に取り組んでいます。

ここからは、環境省で検討した「登山道のあり方調査」の報告と荒廃した登山道の修復整備を行う「日本百名山事業」の概要について紹介したいと思います。

国立・国定公園における登山道のあり方検討調査について

平成11年度から13年度にかけて、学識経験者、登山家、山小屋関係者、関連行政機関等による「国立・国定公園における登山道のあり方検討会」が催されました。

検討会では、登山道の適切な整備水準や維持管理のあり方、登山者の自己責任の範囲、山岳関係者の連携協力の可能性などについて話し合い、今後の登山道のあるべき姿として、以下の基本的な考え方が示されました。

・整備・維持管理のレベル分け

登山道の整備には限界があり、登山道毎の整備・維持管理のレベル分けが必要である。

・丁寧な、自然にやさしい登山道整備事業

山岳地の登山道は、快適な利用よりも周辺の自然環境へ大きな影響を与えないことが優先される。

・荒廃の防止と復元

・安全確保のための情報提供

的確な登山道の情報提供の入手や収集のシステムの確立が必要。

・保険加入の促進

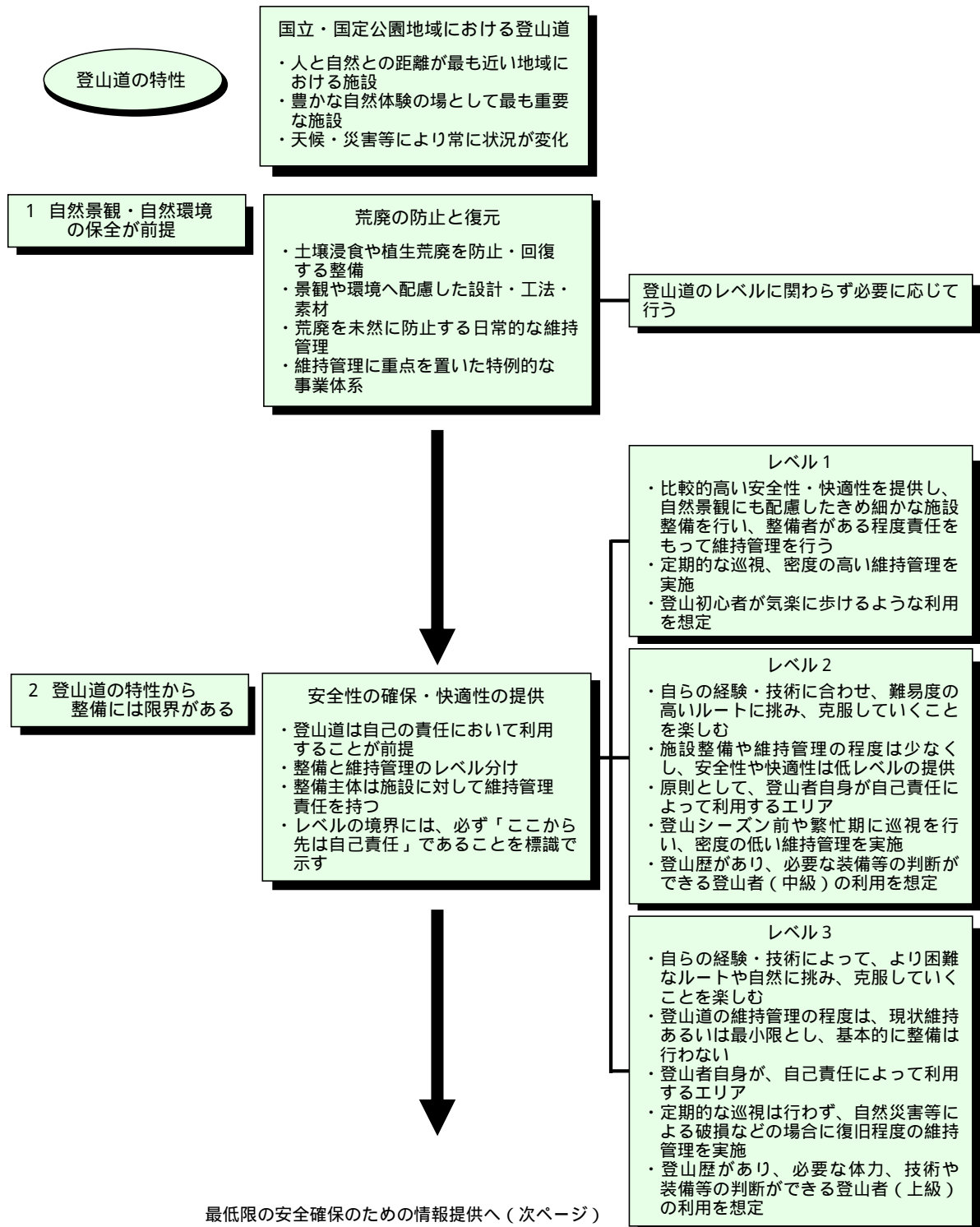
万が一の事故・遭難に対して登山者・施設管理者双方の責任を保証する必要がある。

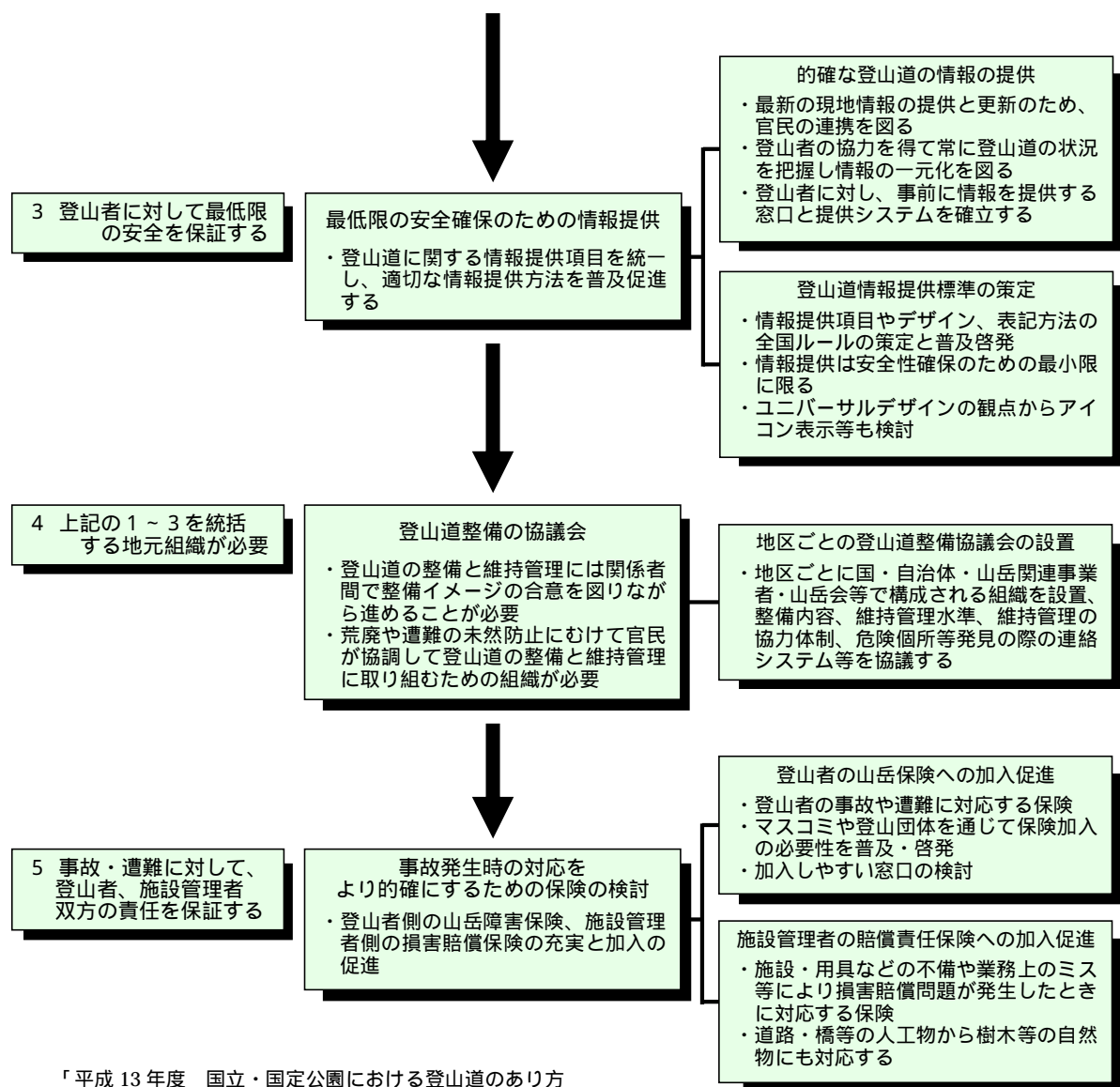
・登山道整備の協議会

登山道の荒廃や遭難防止に向けて、官民が協調して登山道の整備と維持管理に取り組む組織が必要である。

今後は、各山岳地域の実情にあった登山道の整備・管理体制の確立が求められています。

登山道対応策の基本的な考え方





「平成13年度 国立・国定公園における登山道のあり方検討調査報告書」より一部修正

日本百名山登山歩道整備事業について

「日本百名山事業」は、百名山の主な登山道において、登山道の浸食や植生破壊の抑制、あるいは山岳トイレの施設改善といった、今よりも自然への負担が軽減するような施設、登山者の適正な利用が図れるような施設の整備を行う事業です。百名山の素晴らしい山岳の景観と環境を守るとともに、山岳の雰囲気や自然を壊さず、安全な山岳利用が行えるよう施設を整備することが目標です。

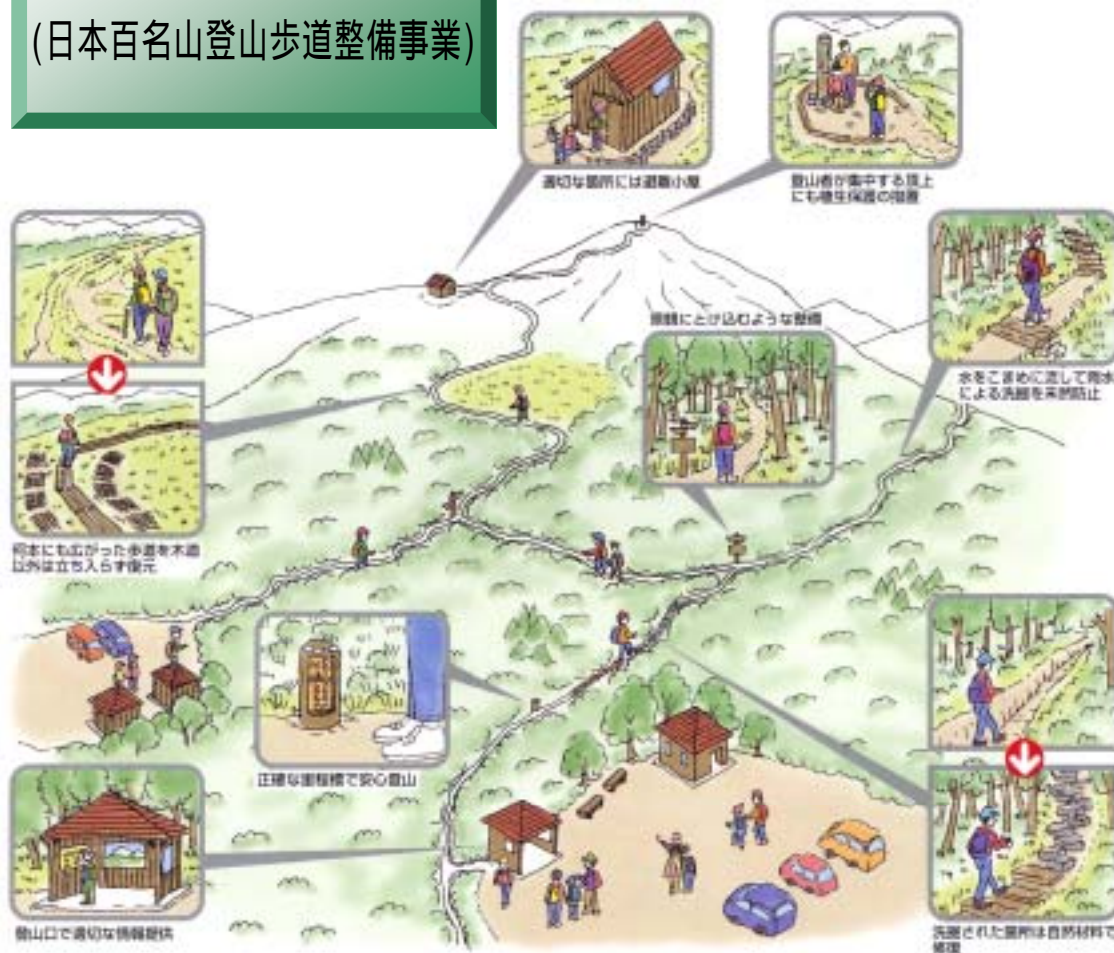
この事業では、登山道の維持管理・自然環境の保全方策などを含めた整備計画を策定し、総合的・計画的に必要な整備を行っていきます。登山道の浸食や植生破壊などの進行を抑えるための浸食防止工や植生回復工、安全確保のため不可欠な情報提供を行う標識の整備、山岳地域の適正な利用に必要なトイレ、駐車場などの整備を計画的に実施していきます。

山岳地の施設整備は、脆弱な自然で行うことが多く、整備する際には、周辺の自然への配慮が必要です。また、過剰整備とならないよう利用状況に見合った自然にやさしい登山道整備手法も積極的に取り入れていくことも求められます。

この事業は、平成13年度から事業が始まり、現在までに霧島屋久国立公園の宮之浦岳を始め21の山で実施されています。

利用集中特定山岳地域 登山歩道整備事業 (日本百名山登山歩道整備事業)

近年の中老年等の登山ブームを背景に登山者が集中し、登山道の荒廃や浸食を招いている登山道において、利用者の安全確保と自然環境の保全を図ることを目的とした施設を整備



利用集中特定山岳地域登山歩道（日本百名山歩道）

公園名等	地域名	事業主体	公園名等	地域名	事業主体
蔵王国定	蔵王山	宮城県	中部山岳国立	立山	富山県
鳥海国定	鳥海山	秋田県	白山国立	白山	福井県
蔵王国定	蔵王山	山形県	八ヶ岳中信高原国定	霧ヶ峰	長野県下諏訪町
鳥海国定	鳥海山	山形県	国立・国定区域外	木曾駒ヶ岳	長野県木曾福島町、宮田村
磐梯朝日国立	朝日岳	山形県	国立・国定区域外	空木岳	長野県駒ヶ根市ほか
磐梯朝日国立	月山	山形県	国立・国定区域外	御岳	長野県王滝村ほか
磐梯朝日国立	吾妻山	山形県	国立・国定区域外	雨飾山	長野県小谷村
磐梯朝日国立	安達太良山	福島県	上信越高原国立	伊吹山	滋賀県伊吹町
磐梯朝日国立	飯豊山	福島県山都町	琵琶湖国定	大山	鳥取県
国立・国定区域外	赤城山	群馬県	大山隠岐国立	剣山	徳島県
上信越高原国立	四阿山	群馬県	剣山国定	宮之浦岳	鹿児島県
丹沢大山国定	丹沢山	神奈川県	霧島屋久国立		

「自然との共生をめざして」環境省パンフレットより抜粋
 < 環境省自然環境局白峰自然保護官事務所 >

百名山のふるさと白山整備事業について

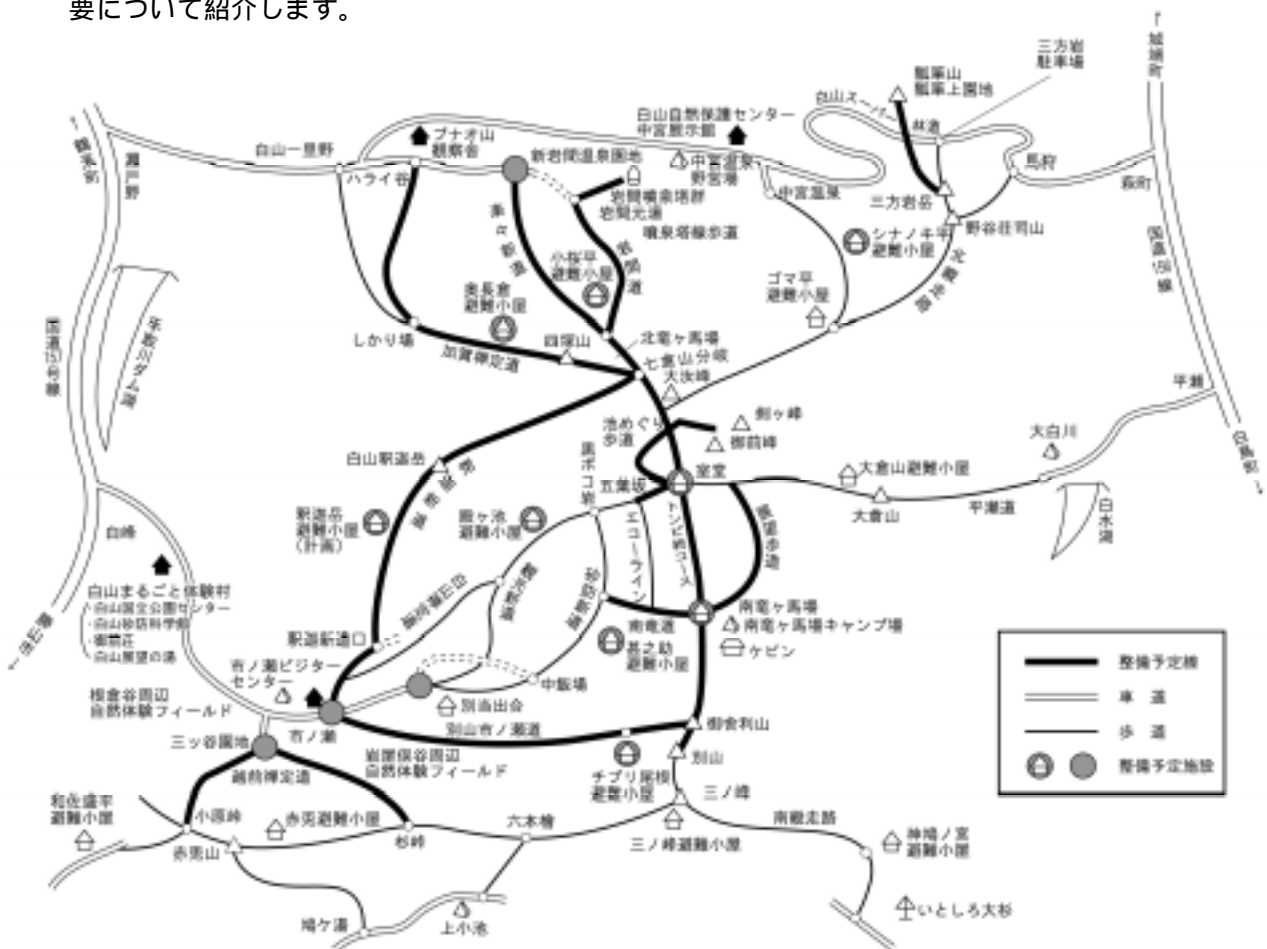
加藤 力

白山は、昭和 37 年 11 月 12 日に全国で 20 番目の国立公園として指定され、平成 14 年には国立公園指定 40 周年を迎えました。石川県では、国立公園指定を機に昭和 30 年代後半から昭和 40 年代にかけて登山道、避難小屋、宿泊施設、野営場など白山の大自然とふれあえる基盤整備を重点的に行い、昭和 50 年代の初めには、現在ある白山の登山施設の原形を整えてきました。

白山の登山施設のうち、整備後 30 年以上経過したものが多数あり、山岳地の厳しい自然環境の中で避難小屋など施設の破損が激しく改修を要するものや、また長年にわたる登山者の踏圧等による登山道の洗掘や登山道周辺部の植生破壊、裸地化が進行している個所も多くみられるようになりました。

石川県では、「白山緑のダイヤモンド計画」(平成 7 ~ 13 年)として、特に利用度の高い白峰村市ノ瀬地区から室堂地区までの区間を中心に登山道やビジターセンターの改修、植生保護対策等を進めてきました。そして平成 15 年度から北部、南部白山地域も対象区域に含め、「百名山のふるさと白山整備事業」として、登山施設の改修等を進めていくこととなりました。

「百名山のふるさと白山整備事業」では、「歴史の道」である加賀禅定道、美濃禅定道、越前禅定道などの登山道の改修や整備、登山道周辺の植生保護対策、老朽化した避難小屋の改修、トイレの改良、利用拠点や登山口の施設改修等を順次行っていく予定です。今回は、事業の概要について紹介します。



百名山のふるさと白山整備事業で整備する登山道等

百名山のふるさと白山整備事業の概要

1 目的

白山は、国民・県民共有の財産であり、日本百名山を生み出したルーツである。また、石川県のシンボルとして親しまれ、多くの登山者に感動を与え続けている。

このような白山の自然・歴史・文化を損なうことなく、より快適に、より深くふれあえる魅力的な白山を将来へ継承するため、登山施設等の適切な改善・修復を図る。

2 基本方針

白山の貴重な自然環境の保全と快適な利用の両立を目指し、持続的保全利用のための適切な方策を講じることを基本的な前提とし、下記を基本方針として事業を実施する。

〔百名山のふるさと白山整備事業の基本方針〕

登山道の浸食防止や植生復元など、自然環境の保全修復を積極的に推進
中高年層、女性登山者の増大等、近年の登山者の利用形態を踏まえた登山道等の基盤整備と安全対策の徹底
室堂～山頂部への利用の一極集中の分散
環境負荷の少ないトイレシステムや自然エネルギー等の導入

3 事業計画案

(1) 事業年度 平成15年度～平成19年度(5か年)

(2) 事業概要

登山道の整備、改修(登山口整備、標識整備、植生保全修復等を含む)
・白山の禅定道の整備、改修(歴史の道の復元・改修)



加賀禅定道
ハライ谷～檜新宮～四塚山～北竜ヶ馬場
…………… 既存の加賀禅定道の改修

檜新宮



美濃禅定道
三ノ峰～別山～南竜ヶ馬場～
トンビ岩コース～室堂
…………… 既存の南縦走路の改修

別山山頂付近



越前禅定道

市ノ瀬～三谷～小原峠

…………… 新設（福井県側と連結）

小原峠付近からの白山

・白山の多様な魅力が体験できる登山道の改修等

「釈迦新道（市ノ瀬～釈迦新道口～釈迦岳～北竜ヶ馬場）」

「市ノ瀬・別山道（市ノ瀬～チブリ尾根～別山）」

「高飯場・室堂線（南竜道分岐～南竜道～南竜ヶ馬場～展望歩道～室堂）」

「岩間道」「岩間噴泉塔線」「楽々新道」「五葉坂」等、既存登山道の改修

「三ツ谷杉峠線」「北縦走路（瓢箪上園地～三方岩分岐）」の新設等



観察会で利用される市ノ瀬・別山道



多くの登山者でにぎわう南竜道分岐付近

避難小屋、トイレの整備、改修

・避難小屋

チブリ尾根避難小屋（改修）	（昭和44年建築、木造平屋 33.21 m ² ）
甚之助避難小屋（改修）	（昭和45年建築、木造平屋 48.00 m ² ）
小桜平避難小屋（改修）	（昭和46年建築、木造平屋 24.00 m ² ）
シナノキ平避難小屋（トイレ改良等）	（昭和47年建築、木造平屋 44.79 m ² ）
殿ヶ池避難小屋（トイレ改良等）	（昭和53年建築、木造平屋 29.16 m ² ）
奥長倉避難小屋（トイレ改良等）	（平成元年建築、木造平屋 45.60 m ² ）
釈迦岳避難小屋（新設）	（木造平屋 20 m ² ）

・トイレ

甚之助便所（トイレ改良等）	（平成4年建築、木造平屋 18.36 m ² ）
室堂公衆便所（トイレ改良等）	（平成5年建築、木造平屋 34.02 m ² ）
南竜野営場公衆便所（トイレ改良等）	（昭和55年建築、木造平屋 66.60 m ² ）
新岩間地区便所（新設）	（木造平屋 22 m ² ）
三ツ谷登山口便所（新設）	（木造平屋 22 m ² ）



チブリ尾根避難小屋



甚之助避難小屋（左）と甚之助便所（右）



シナノキ平避難小屋



奥長倉避難小屋

利用拠点、登山口駐車場の整備、改修

・利用拠点

室堂地区（水源の確保、水場改修等）

南竜ヶ馬場地区

（山荘改装、浄化槽改修等）

・登山口駐車場の改修、整備

「市ノ瀬駐車場」（改修）

「別当出合駐車場」（改修）

「新岩間地区駐車場」（新設）

「三ツ谷登山口駐車場」（新設）



南竜ヶ馬場 一番奥の建物が南竜山荘

（3）その他

・白山登山施設運営協議会（仮称）の設置

国、県、地元自治体、山岳関連団体（事業者、山岳会等）などで構成される組織を設置し、相互の連携を図りながら協力体制を確立し、登山施設の管理運営面での強化充実を図る。

・トイレ、避難小屋等のチップ制、駐車場有料化（協力金）の検討

< 石川県自然保護課 >

砂防新道の整備と課題

館 清



空から見た砂防新道

白山の登山者のほとんどが利用する砂防新道

砂防新道は、白山の登山者のほとんどが利用する登山道です。登山口である別当出合までの交通の便も良く、山頂までは他の登山道に比べると距離も短く、比較的短時間で行けるため、初級者から上級者まで利用する重要な登山道です。空中写真で見ると、この登山道は尾根の上を行く登山道で、自然災害等により崩壊した場合でも登山ルートを大きく変更することはできません。これまで、毎年の様に小規模な災害に見舞われており、その度に小規模な修繕・補修を実施していました。最近の整備は、平成 11・12 年度に環境庁（現 環境省）による緑のダイヤモンド計画事業の一環で行われました。その後、現在、国土交通省による光ファイバーケーブルを登山道の地下に埋設する工事に伴った再整備がなされています。また、中飯場周辺では、登山道と工事車両が通行する作業道との立体交差化事業も進んでいます。

登山道整備の基本

基本的な登山道整備で考慮しなければならないことは、登山道の形をなるべく変えず、いかに長く利用することができるかということです。砂防新道は一極集中の過剰利用により、人為と自然的な要因の双方が関係した複合荒廃が進行しています。砂防新道の整備課題としては、雨と登山者の利用による土砂の流失の防止、登山者の踏圧による植生の後退防止、登山者が滞留する場所での過剰利用による荒廃の防止、自然的な荒廃・崩壊の防止があげられます。緑のダイヤモンド計画事業での砂防新道整備は、自然的な荒廃の区間よりも登山者の過剰利用により傷んでいる所を集中的に整備することにしました。全線を広く薄く整備するのではなく、投資効果・有効性を考え、～を集中的に整備することにし、～については必要に



砂防新道地図

じ整備することにしたのです。

登山道の整備にあたっては、これ以上の荒廃を防ぐことと、登山道の耐久性を持たせ、登山道の維持管理費を削減すること等を考え、これまでよりも石材を使用し、平らに石を並べる石張り工法を多く採用しました。これまでの登山道で行った石張り区間も参考にし、それらについての利用者・関係者等の意見・反省点をふまえて施工しています。



段差が大きくならないように、石及び丸太階段等を細かく配置した（砂防新道）

これまでの登山道整備で登山者から指摘されていることの多くが、階段の段差が大きすぎるということでした。階段は、完成した時には良いのですが、時間が経つと段差が大きくなっていくため、段差が大きくならないように、石及び丸太階段等を細かく配置しました。丸太階段でも、鉄筋だけが残ってしまわないよう、これまで使用していた鉄筋杭の使用を止めました。また、傾斜している場所の石張りでも必ず平坦な部分を設けて安全に登山が出来るように工夫しています。石張り工法は、登山者が多く滞留

する場所でも、植生の後退防止と利用範囲をよりはっきりさせるために採用しています。

登山道整備の材料は基本的に現地で採取したものを使用します。今後の登山道整備では、長期間の利用のことを考えると、石を使った整備が中心となるのではないかと考えられますが、今まで使用していた雪溪の消えたあとにある石材は過去の整備工事等で使用したため、現在では数量確保が不可能になってきています。そのため、現在は白山山系の採石場で選別した石材を使用することにしています。なお、木材については、防腐加工を施さなくても長期間使用できるアテ材を使用しています。

南竜道分岐から黒ボコ岩

南竜道分岐から黒ボコ岩の区間は、緑のダイヤモンド計画では事業を見送った区間でしたが、現在、国土交通省の光ファイバーケーブル布設事業で整備が行われています。この区間は自然

的な荒廃・崩壊が著しく、砂防新道では工事の難所となっているところです。工事方法や構造等も基本的には、これまでの登山道整備の事例を取り入れてもらっています。一部、地盤等がもろい場所・重要箇所にはコンクリートを使用していますが、なるべく自然景観に馴染むよう石積みをするなど、登山道の保護と調和を図っています。登山道の安全性確保と光ファイバーケーブルに負担が掛からないようにするかという問題が工事関係者を悩ませていると聞いています。工法・構造等で優れている物に関しては、今後の他の登山道工事での補修・改修工事に反映させたいと思っています。

登山者からの意見

平成 13 年度から白山自然保護センターが行ったアンケート調査では、白山の登山道は概ね良好であるとの意見が多くあげられていました。しかし、少数ですが、石張りの区間に対しては、登山道らしくない、整備されすぎとの意見がありました。この意見の大半は砂防新道を指しており、一部は観光新道と思われま。登山道は、整備すればするほど、ある登山者には喜ばれま



石張り工（砂防新道）

すが、登山者の中には登山道らしくない、快適になり過ぎと言われます。また、一か所が整備して良くなれば、登山者の多くが、もっと整備してほしい、別の区間も整備してほしいといった要求が多くなる傾向にあります。

最近の登山ブームで、白山の登山者にも様々な意見を持った方がおられ、様々な意見が寄せられています。その中には平野部での生活環境を山にまで持ち込み、山でも平野部と同じ感覚で、不便すぎだという意見を言う人もいます。時代変化に応じて登山道や施設を整備していますが、あまり快適さを追求しすぎると自然環境破壊が進行します。山は不便であるから楽しい、ある程度は不便であることが当たり前だという山の基本感覚が忘れられてきてはいないでしょうか。

今後の課題

砂防新道の一番の課題は、やはり過剰利用・集中利用による登山道の荒廃です。宿泊施設に予約制を導入し、利用者の分散化を図っていますが、今後も、どのようにしたら登山利用者が分散化し、一極集中が軽減されるかを考えていかなければならないと思います。

今後、砂防新道では登山道については大規模な整備の予定はなく、通常の維持管理と小規模な補修程度で長期間登山道の機能を維持していくことになります。補修や管理のための予算も削減傾向ですが、大規模なものは出来るときに集中的に整備を行うことにしています。

また、今後の登山道整備では砂防新道、その他登山道を含めて、どこまで整備するのか、何とその登山道で必要なのかなどの問題を探り出して再検討しなければなりません。白山のそれぞれの登山道には特色も色々あり、交通アクセス・距離・利用目的・歴史等の違いもあり、各登山道、施設に応じた整備の基準を定めることが必要な時期にきています。登山者の方からも、他の山岳での具体的な登山道の整備方法や自然になじむ工法の事例などの情報・参考例を頂ければと思います。

< 白山自然保護センター >

白山国立公園の30年(1)

四手井 英一

私が白山自然保護センター設立準備に赴任してきた昭和46年当時の白山は、登山利用者も少なく、年間25,000人程度でした。私が始めて白山に登った時、その汚さに驚いたものです。市ノ瀬はまだしも、別当出合、中飯場、甚之助避難小屋、室堂、山頂といたる所に置かれたゴミ箱からゴミが溢れ出し、周囲に散乱し、風が吹けば舞散り、ハイマツの中やお花畑の中までゴミが散乱していました。現在、南竜ヶ馬場や南部白山の管理を担当している株式会社ツーワン白峰の常務をしておられる山田健治さんと、これはなんとかしなくてはとの話になり、それには取り敢えずゴミ箱を撤収しようということになりました。これには種々の問題点や抵抗もありましたが、当時の県の観光課長が「問題点はその都度解決すればよい。取り敢えずやれ」と命令を下し、登山者へのアピール、ゴミ持ち帰り袋の用意、清掃部隊の編成と白山浄化への準備が進みました。現在では一部の心無い登山者を除けばごみ持ち帰りは浸透し、白山は美しいとの評価をいただけるようになりました。ただ残念なのは冬季の登山者が、雪の中にゴミを埋めて帰り、それが春になると登山道から離れたハイマツの中やお花畑の中に顔を出すことです。今後とも白山を美しく保つために、利用者の方々のご協力をお願いします。

ゴミ問題は一段落しましたが、その一方、登山道の荒廃がひどく、特に登山者が集中する弥



昭和52年当時の弥陀ヶ原



現在(平成15年)の弥陀ヶ原

陀ヶ原は、当時ケルンを積む習慣があったことも手伝って、周辺のお花畑への踏み込みが多く写真のようにどれが登山道か解らない状態でした。この弥陀ヶ原は、本来、湿地性の高山植物が生育する雪田植物群落でしたが、黒ボコ岩からの登山道やエコーラインによって水脈を断ち切れ、乾燥化が進んでいました。周囲から乾燥地に強いチシマザサ(ネマガリダケ)が侵入しはじめ、本来の植生が破壊される恐れがでて来たため、平成7年までに植生保護のために登山道の改修を行いました。黒ボコ岩～五葉坂の間は石畳とし、エコーラインは五葉坂からの水が弥陀ヶ原に入りやすいように木道としました。整備の結果については、登山者の意見は様々ですが、概ね好評のようです。とにかく万人が納得する方法はなかなか見つからないのが現状です。もし、何か他の良い方法があれば教えていただきたいと思います。

<白山自然保護センター>

白山ガイドボランティア新メンバー活動開始！



館内展示を来館者に紹介

白山自然ガイドボランティアに、この度 23 名の新しいメンバーが加わるようになりました。7 月 13 日にすべての研修を終えた新メンバーは、7 月下旬から早速活動を開始しました。

初めての活動日、市ノ瀬ビジターセンター内の展示や外の園地などを、先輩ボランティアや職員と一緒に歩いてもらい、何があるのかを調べてもらいました。ガイドウォークの時には、参

加者に解説したり、写真撮影をしてもらったりなど、初日から活躍してもらった新メンバーもいました。

「できるだけ、訪れる人たちと、たくさん接して下さい。」とのお願いに、快く反応していただき、館内では来館者に積極的に言葉をかけていただいています。おかげで館内は一層明るく、楽しい雰囲気になってきました。新しい顔ぶれが増え、総勢 55 名になった白山自然ガイドボランティアの皆さんを、これからも末永く応援してください。ボランティアと一緒に、野外を歩いてみましょう。小さな発見が、意外な感動につながるかもしれません。

(三原ゆかり)



「おっ、何かでたぞ！」
初ガイドウォークは、
子供たちと化石探して
した。

本年度、中宮展示館は4月26日より開館しました。残雪が多い中での開館でした。

蛇谷自然観察路の早春、カタクリ、キクザキイチリンソウからニリンソウ、ラショウモンカズラに次いでタニウツギ、ヒメウツギ、初夏のオカトラノオ、ホタルブクロと開花の暦は中宮展示館開館シーズンの折返しに入ります。

5月24、25日の白山グリーンデーのイベントには、4,000人を越える入館者で賑わいました。自然へのまなざしがますます広まってほしいものです。皆様の御期待にそえますよう蛇谷エリアの有効利用につとめていきたいと思っています。

今年は、暑い暑いとのあいさつ言葉の聞かれないうちに8月に入りました。長い梅雨の間には、展示館前の芝生にガンタケ、コベニタケ、ササクレヒトヨタケが生えました。

(田中 稔)



白山グリーンデー
多くの参加者で賑わう中宮展示館前



白山グリーンデーで白山スーパー林道
の中を散策



展示館前の芝生に生えたガンタケ(写真 左)とコベニタケ(写真 右)

センターの動き (3月26日～8月20日)

- | | | | |
|---------|--|---------|--|
| 4. 8 | イヌワシ・クマタカ保護調査検討会 (東京) | 6.15 | 白山自然ガイドボランティア養成講座 (第2回)
(市ノ瀬) |
| 4.17 | 白山自動車利用適正化連絡協議会 (本庁舎) | 6.19～20 | 全国科学博物館協議会総会 (東京) |
| 4.25 | 白山麓鳥獣害防止対策協議会委員会 (河内村) | 6.21 | 県民白山講座
「白山登山と高山植物の集い」 (鶴来町) |
| 4.25 | 白山麓鳥獣害防止対策協議会総会 (河内村) | 6.24 | 白山麓鳥獣害対策協議会委員会 (鳥越村) |
| 4.26 | 中宮展示館・市ノ瀬ビジターセンター開館 | 6.26 | 消防学校研修での講話 (金沢市) |
| 4.28～29 | 白山フィールドセミナー「白山と春を描こう」
(白峰村) | 6.27 | 公開シンポジウム「申、猴、猿と日本人」 (仙台市) |
| 5. 5 | ブナオ山観察舎閉館 | 7. 1 | 白山開山祭 |
| 5.11 | 白山まるごと体験教室 「ツキノワグマを探そう」
(市ノ瀬) | 7. 5～6 | 白山フィールドセミナー
「白山麓野生再発見 サルを追う」 (本庁舎ほか) |
| 5.15 | 石川県博物館協議会総会 (金沢市) | 7.13 | 白山自然ガイドボランティア養成講座 (第3回)
(中宮) |
| 5.20 | 緑の回廊計画検討会 (金沢市) | 7.24 | 宮城県二ホンザル保護管理計画策定検討委員会
(仙台市) |
| 5.24～25 | 白山グリーンデー (一里野～白山スーパー林道)
白山自然ガイドボランティア養成講座 (第1回)
(白山国立公園センター) | 8. 1 | 国立・国定公園内における風力発電
施設設置のあり方に関する検討会 (東京) |
| 5.30 | 白山自然保護調査研究会幹事会 (金沢市)
鶴来町老人会講演 (本庁舎) | 8. 2 | 砂防まるごと体験教室 (白峰村) |
| 6. 1 | 白山まるごと体験教室 「新緑のブナ原生林1」
(市ノ瀬) | 8. 5～6 | 白山フィールドセミナー「山の暮らしを撮る」
(白峰村ほか) |
| 6. 8 | 白山まるごと体験教室 「新緑のブナ原生林2」
(市ノ瀬) | 8.18 | 第21回ライン祭式典 (白峰村) |

編集後記

本号では、登山道などの整備や管理についての国の方針、白山で実施していく新しい登山施設整備事業、そして実際に工事を設計している担当者の登山道整備について配慮していること、課題などを記事にしました。白山の登山道は、比較的良好に整備されているほうだといわれます。しかし、その工事には大型機械を使うこともできず、大きな石を移動するのも組み上げるのも、ほとんど人力でというのが現状です。高山帯での限られた工事期間、多量の積雪といった白山の自然環境は、登山道の整備や維持管理にも厳しい点がありますが、いかに自然環境に配慮しつつ、また登山者が安全に登山できるような登山道にするか、今後も考えていく必要があるのではないかと思います。特集記事を組みました。

また、当白山自然保護センターは昭和48年開設され、本年は設立30周年に当たります。そこで、開設当時の職員で、現在も当センター職員である四手井が4回にわたりコラムを担当します。この30年間で移り変わってきた白山について記事にする予定です。
(野上)

目次

特集 登山道整備

表紙	センサーを用いた登山者数調査	野上 達也・二神 紀彦	... 1
	日本百名山登山歩道整備事業について	二神 紀彦	... 2
	百名山のふるさと白山整備事業について	加藤 力	... 6
	砂防新道の整備と課題	館 清	... 10
	白山国立公園の30年(1)	四手井英一	... 13
	施設だより 市ノ瀬ビジターセンター	三原ゆかり	... 14
	中宮展示館	田中 稔	... 15

発行日 2003年8月20日 (年4回発行)
 編集発行 石川県白山自然保護センター
 〒920-2326 石川県石川郡吉野谷村木滑又4
 TEL. 0761-95-5321 FAX. 0761-95-5323
 URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>
 E-mail hakusan@pref.ishikawa.jp
 印刷所 前田印刷株式会社

はくさん 第31巻 第1号 (通巻127号)